



2012年3月5日

「復興の象徴」顕彰

東日本大震災被災地域で医療サービス再生に尽力した 9名、4施設、1団体を選出

サノフィ・アベンティス株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:ジェズ・モールドィング、以下「サノフィ・アベンティス」)は、社団法人全日本病院協会(以下「全日本病院協会」)および社団法人日本病院会(以下「日本病院会」)と共催で(後援:文部科学省、厚生労働省、公益社団法人 日本看護協会、福祉自治体ユニット)、東日本大震災被災地域で医療サービス再生に尽力した 9 名、4 施設、1 団体を、「復興の象徴」として顕彰しました。

昨年 3 月に東北地方を襲った未曾有の大震災後約 1 年が経過するなか、甚大な被害を受けた地域の方々の精神力、勇気、そして不断の努力によって、これまでさまざまな復興への取り組みがなされてきておりますが、サノフィ・アベンティス、全日本病院会ならびに日本病院会は、その取り組みの中でも特に医療分野に関する成果に焦点をあて、3 月 2 日、ウェスティンホテル仙台において、「復興の象徴」顕彰会を開催し、被災地域において医療サービスの再生のために尽力された方々を称えました。

「復興の象徴」は、諮問委員会により、3 部門(看護師部門、病院・診療所部門、医師部門、特別部門)において岩手県、宮城県、福島県、茨城県の 4 県から選出され、また特別部門枠で薬剤師 1 名と全国からの医療支援チームが選出されました。詳細は別紙をご覧ください。

サノフィ・アベンティス代表取締役社長のジェズ・モールドィングは「昨年 3 月 11 日の大地震および津波により甚大な被害を受けた被災地において、医療サービス再生に尽力された『復興の象徴』を顕彰する機会を得ましたことを非常に光栄に思います。このたび顕彰された方々は、困難な時期を医療が必要な人々とともに過ごし、被災地域のヘルスケア復興のために献身的に行動を起こされた人々の代表者です。復興は長い道のりです。『復興の象徴』の共催者一同、復興に向けた精神が、今後も 1 日 1 日継続していくことを願ってやみません。私どもサノフィ・アベンティスも、日本の健康と医療に貢献し、最も信頼されるヘルスケアリーダーになるべく、引き続き努力を続けてまいります」と述べています。

サノフィ・アベンティスは、被災地の一日も早い復興を祈念いたします。

以上

別添:「復興の象徴」の氏名・名称と活動内容

サノフィ・アベンティス株式会社

〒163-1488 東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティタワー
www.sanofi-aventis.co.jp

サノフィ・アベンティスは、サノフィ・グループの一員です





「復興の象徴」9名、4施設、1団体の氏名・名称と活動内容

看護師部門



(敬称略)

県名	氏名	所属・役職
岩手県	 大坂 暢子	社団法人日本助産師会岩手県支部 支部長
宮城県	 谷中 紳多郎	医療法人陽気会網小医院 介護老人保健施設網小 副施設長
福島県	 玉根 幸恵	福島県楢葉町住民福祉課保健衛生係長(保健師)
茨城県	 角田 直枝	茨城県立中央病院 看護局長





病院・診療所部門

県名	施設名
岩手県	 岩手県立高田病院
宮城県	 医療法人社団健育会 石巻港湾病院





福島県	医療法人誠愛会 原町中央産婦人科医院
	<p>福島第一原発から23～24kmの地点にある同医院は「屋内退避」の地域指定を受け一旦は避難するが、院長の高橋医師は「患者を置いて先に逃げるわけにはいかない」と南相馬市に戻り、市内にある47医療機関が次々と閉鎖する中、個人病院では唯一診察を続けた。</p> <p>顕彰会出席者:高橋トヨ子氏(高橋 享平院長夫人)</p>
茨城県	医療法人博仁会 志村大宮病院
	<p>県内の医療機関の被害は大きくクローズアップされなかったが、地震による建物被害や周辺地域が被災する中で医療の継続に尽力。</p> <p>顕彰会出席者:山中 亮二管理部長</p>

医師部門

県名	氏名	所属・役職
岩手県	木川田 典彌	医療法人勝久会 地ノ森クリニック 理事長
	東日本大震災で陸前高田市の診療所、老人保健施設等が甚大な被害を受けライフラインが断絶する中で、先頭に立って井戸水を確保する等、復旧に努め、市内唯一の透析施設を迅速に再稼働させる等、地域医療の復興に最大限努め、被災地の高齢者等を支援してきた。	
宮城県	宮城 秀晃	宮城クリニック 院長
	3.11 規模の大災害の後には心のケアが重要となることから、仲間と「震災こころのケア・ネットワークみやぎ」を設立。被災で生活困難であろう家庭を戸別訪問しての医療支援、保健師の支援、ハローワークでの相談会他、被災者の心をケアする様々な活動を行っている。	
福島県	木田 光一	いわき市医師会 会長
	いわき市の医療機能の回復のため医師会を陣頭指揮。長期戦が必至な地域医療再生のため、医療支援の戦力となる各地から集まるボランティアたちが疲弊しないよう2～3日間で入れ替わるチーム編成をする等、知恵を絞った取り組みをいち早く始めた。	
茨城県	安田 貢	筑波大学人間総合科学研究科つくば災害復興緊急医療 調整室長
	東日本大震災に際して東北三県と同様、北茨城市は大きな被害を受けたが、筑波大学のDMATの中心として災害救助に献身的に尽力するとともに、茨城県緊急医療体制の整備ならびに連携強化に努めている。	



特別部門

薬剤師	丹野 佳郎 <small>たんの よしろう</small>	宮城県薬剤師会副会長・石巻薬剤師会専務理事
	震災直後に派遣された支援薬剤師の現地調整役として尽力。また避難所で慢性疾患の薬が多く求められる中で、その場で処方箋を作成し薬剤を配達することができるよう医師と薬剤師と一緒に避難所を巡回するチームを編成する等、巡回医療班の支援に努めた。	
全国からの支援	Japan Medical Spirits (ジャパン・メディカル・スピリッツ)	
	震災後、被災地に入った医療支援チームが次々と撤退のやむなきに至る中、復興期こそ継続的な支援が必要という認識をもつ医師が集結。宮城県登米市民病院、気仙沼市立本吉病院での週末診療支援と、岩手県立高田病院での産婦人科外来診療支援を継続している。 顕彰会出席者：東京女子医科大学八千代医療センター麻酔科 佐藤 二郎 <small>きとう じろう</small>	